

庁 議 録

招集年月日	平成 25 年 11 月 12 日 (火)							
開会時刻	午後 3 時 00 分	閉会時刻	午後 3 時 45 分					
開催場所	庁議室							
出席の状況 (○出席者、代は代理出席)								
1	市長	○	2	副市長	○	3	教育長	○
4	総務部長	○	5	直轄理事	○	6	財務部長	○
7	市民生活部長	○	8	理事兼政策監	—	9	健康福祉部長	代
10	産業部長	○	11	建設部長	○	12	上下水道部長	○
13	教育部長	○	14	こども部長	○	15	伊達総合支所長	○
16	梁川総合支所長	○	17	保原総合支所長	代	18	霊山総合支所長	代
19	月舘総合支所長	○	20	議会事務局長	○	21	会計管理者	○
代理出席者	9 健康福祉部次長 17 副総合支所長 18 副総合支所長							
職務のため出席した者	産業部次長、総合政策課長、健幸都市推進室長、総務課長、人事課長、秘書広報課長、財政課長、							
案件説明のため出席した者								
付 議 事 案 協 議 事 項	<p>1. 議題</p> <p>(1) 第 5 回伊達市議会定例会提出議案概要について 【総務部】</p> <p>2. その他</p> <p>(1) 特別職主要業務予定について (11 月上半期)</p> <p>(2) その他</p>							

## 庁 議 の 内 容（協議経過、結論等）

### 1. 議題

- (1) 第5回伊達市議会定例会提出議案概要について 【総務部】  
各担当部長から提出議案の概要について説明があった。

### 2. その他

- (1) 特別職主要業務予定について（11月上半期）

(2) その他

直轄理事：木づかい啓発セミナー（11/30）開催について

議会事務局長：12月議会はニット議会ということで、ニットタイの準備している。

市長：地場産業のPR効果を考えるとカーディガンの方がいいのでは？

産業部長：ニット組合へ事情を聞いてみたい。

## 市長発言要旨

ここ数日、新聞に「年間 20 ミリシーベルト」という活字が動き出している。原子力規制委員会の田中委員長が以前から言ってきたことで、20 ミリシーベルトというのは帰還に必要な条件であって十分条件ではないが、1 ミリシーベルト以下でなければ帰れないというのでは、除染にしても現実的にはかなり難しいものがある。長期目標の1 ミリシーベルトが前提にあって、住民の帰還に年間 20 ミリシーベルト以下という考え方はこれから受け入れられていくのだと思う。

1 ミリシーベルトにならないからといって避難を続けて、ストレス、病気、死亡する人まで出てきている。これでは本末転倒であり、避難することによるリスクも考えなければならない。あるリスクを回避しようとするとは別のリスクが出てくる「リスクトレードオフ」という考え方も持たなければならない。

新聞によると（11 日に行われた）原子力規制委員会の検討会が、被曝線量を「空間線量」から「個人線量」による実測値で評価することを「帰還対策についての提言案」に盛り込んだと書いてある。個人線量計をつけていくことを評価する記事やモデルケースとして伊達市の取り組みを紹介している記事もあった。

伊達市では、全市民が去年の 6 月からガラスバッチをつけて 1 年間の累積線量を出しており、現在も 2 万 7 千人が実測している。C エリアも 7 月からモニター調査をしており、その結果が間もなく出ると思うが、「これだけ下がった」や「累積線量も心配ない」ということを発信しなければならないと思う。

職員も（放射能対策について）最近の動向に関心を持っていてもらいたい。

過日、朝日新聞に載った私の発言について触れておくと、あれは全く真意が伝わるものではなく、センセーショナルな書き方になっている。記者には社会の木鐸としての役目を果たしてもらいたいものである。